

IOC調整委員会コーツ委員長等の知事面会 冒頭あいさつ

日時：令和元年10月25日（金） 15：30～17：00

場所：7階中会議室

<知事>

ジョン・コーツ委員長、アレックス・ギラティ副委員長、今日は都庁までお越しいただきましてありがとうございます。

冒頭から恐縮でございますが、IOCの発表には私も、都民も、大変、正直、驚きました。これまで都内の各自治体において、そして、都民の皆さまも、大変、マラソンそして競歩を楽しみにいたしてまいりました。そして一生懸命これまでも準備に励んできたことも事実です。それが故に、突然のこの変更案を出されて、私自身もそして都民の皆さんも大変唐突感が否めないということと、がっかりしたという声がたくさん聞かれているところであります。まだ、残念ながら、みんなが納得するような説明が未だになされていないという一方で、私自身もまず都民に説明しなければいけないアカウントビリティを背負っております。

大会まであと273日となりました。この中で都におきましても、マラソンのテストイベント、そしてこれはほとんど大会と同じようなコースでテストイベントを行いまして、そしてそこで暑さ対策、そして医療体制などのチェックも入念に行ってきたところであることは、よくご存じのとおりであります。

準備を重ねてきた東京都知事として、私は、東京でマラソン・競歩を行っていくという気持ちには変わりはありませんが、来週開催されます調整委員会でしっかりと議論をしていきたいと考えております。

2020年、2020大会の成功を願っているのは、IOCも東京都も同じであります。お互いに信頼関係を保って、そしてこれからも力を合わせて大会の成功に向かって、頑張りたいと存じます。今日は誠にありがとうございます。

<コーツ委員長>

知事、ありがとうございました。この調整委員会の開催される来週の前にこの機会を賜りますこと、御礼を申し上げたいと思います。バッハ会長は、知事そしてその他の方の驚きを十分認識いたしておりまして、10月16日にIOC理事会が決定をし、発表したということで、そういうことで私がここにまいりまして、詳細を説明するようにと要請したわけでございます。

私が16日の朝知事とお話した時にすべて詳細をお話しする機会がなかったので、そう

ということで IOC はドーハで起きたことに関してショックを覚えたのです。つまり東京と同じ温度、湿度という条件下で5つの競技が行われたわけですが、男女のマラソン、50 キロメートルの競歩などが行われたわけですが、それで起きたことにショックを受けました。

これからお会いして、詳細をお話し申し上げるわけですが、私ペーパーを持っておりまして、その内容を共有いたします。また、メディアの方にもこの後共有させていただきます。そのペーパーの内容というのは、詳細なる分析がそれぞれ5つの種目についてなされておりまして、4つのうち5つの種目についてアスリートがそのベストを尽くすことができなかったということで、世界全体的にも一人のみでありました。個人ベストを世界のチャンピオンシップの中で達成できたのもわずか一人であったわけです。

2つの種目が大いに影響を受けております。女性のマラソンと男性の50 キロメートル競歩であります。女性のマラソンにおいては、68 人がスタートしたのですが、それが最終的に終えたのは40 人だけでございました。この時の詳細についてご説明させていただくわけですが、唯一、良い結果が出たのは男性のマラソンの時でありまして、23°Cで行われたそれだけでございました。

この5つの種目のうち、正確に申しますと、39 名が医療的な救護を受けるということになりました。偉大なアスリートはどのように反応したか、それから完走した人たち、また完走していない人の反応についてもご説明し、お示ししていきたいと思っております。IOC はアスリートたちの健康、福利というものを常に念頭に置いておりますことからこういう変更をするという決定をいたしました。このような決定をいたしましたのは、もちろんそのアスリートたちの健康というものもありますが、ドーハと同じようなイメージを東京について人々に持ってほしくなかったと、これだけ準備なされた後で、ドーハの人たちと同じようなイメージを人々に与えたくなかったということで、東京の都民の方々、そして組織委員会、東京都もそのような目に合うはずではないと思っているからです。

既に2つのマラソンについてスタート時間を早めました。7時から6時に。同じく2つの20 キロメートル競歩についても7時から6時へ。そして最も長い50 キロメートルの競歩に関しては、5時半にスタートということにいたしました。ほかの種目も、その時間を早めるということで検討しているものはございます。昨日提案が出たのは、男性のマラソン水泳を6時に始めるという提案が出ました。ただこれは却下されました。そのときにそういう時間に観客は来ないだろうということで。特にボート、カヌーは8時半にしたということで、いろいろな変更が必要になりました。列車の時間変更等々考えまして、そのようになったわけですが、それが今申し上げた時間が最も早い時間となったわけです。競歩、マラソンに関しましては、日の出前に、日の出よりも早くできるということはないと、5時半とか6時とかいう以前にできるということはないのです。ヘリコプターの都合、取材等をするヘリコプターの都合もありますし、また、マラソンのような重要な種目を考えますとそのビジョン自体、見え方自体がよくないということです。

IOC はその他の種目も見たわけですが、最も北の会場ということを検討いたしました。東

京から 800 km北といったところ、そして温度としては、東京より5～6℃低い。そして札幌では毎年8月にマラソンを行っているということ。知事に対しては、東京と札幌の比較、東京とドーハの比較、そして、東京と札幌の比較においては、札幌の条件が東京より良いということをお示ししていきたいと思います。準備をしてこられた東京都には、大変失望されていることは念頭においております。

そして、知事には男女のマラソンですね、また女性については初めてのセレモニー、についてもご提案を申し上げたいと思います。閉会の時に男子のマラソンのメダルの式典を東京で行ってまいります。そして女性も初めてであります、メダルの授賞式を東京にもってまいります。そして、競歩につきましても他の陸上のセッションと同じく、メダルの授賞を同じ場に持ってまいります。ただ、その東京の方々がこの素晴らしいアスリートたちを見ることができないということを確認いたしております。2016年10月のリオの選手を迎える際に、2.5キロメートルの道路を8000名の市民がオープントップのバスで歓迎したことを覚えています。閉会式に向けて午後パレードに、ほかのアスリートたちも例えばサイクリングなどのアスリートたちも参加できるように、札幌のアスリート達と同様に参加できるように検討したいと思います。いくつかの区の中には懸念を抱いている区もありましょう。競歩に関連した。また、恵まれない子供たちのスポーツプログラムなどに関与している東京の区に関して、私も関与してお手伝いをしていきたいと思います、対応策に関して。そして、さらにこれらの補償については議論をしていかなければならないという風に思います。理事会は権限を持っておりまして、ホスト都市との契約にかんがみて、非常に重大なマイナスの影響を及ぼすということに関しては、組織委員会とお話ししていきたいと思います。特に、いろいろと種目のチケットを買われた方々ですね、それぞれに行われる夜のイベントのチケットを買われた方々に関しては払い戻しが当然なされるはずで、そして、アスリートの宿泊に関する補償についても当然のことながら検討しなければなりません。

来週の会合の前にお目にかかれる機会をいただきましたことに関して、御礼を申し上げます。東京へのインパクトを最小化するという点に関しては話をしていきたいと思っております。